

# 少人数の学級における、自らの思考の深まりを実感し、 創造的な力を発揮できる生徒の育成

—— 遠隔合同授業の実施とマンガ漫画指導案の導入を通して ——

南雲 優人

## 《研究の概要》

本研究は、少人数の学級の生徒が、美術の授業において多様な考えに触れる中で、思考の深まりを自覚し、創造的な力を発揮できるようにするためのものである。

現在、様々な教育の場面において、協働的な学びを通して、考えを深めることが求められている。しかし、山間部等にある学校では、1クラスの生徒数が少ない学校も多い。本研究では、遠隔合同授業を手立てとして、少人数の学級でも生徒が多様な意見に触れて、思考を深めていけることの有効性について検証した。

また、遠隔合同授業を行うにあたって、授業を行う教師同士が同じイメージをもつことが必要である。そのため、遠隔合同授業を行いやすくする上で、活動の様子や目指す生徒像がイラストや生徒の言葉で示されたマンガ指導案を用いて、授業のイメージを相手の教師と手軽に共有できることの有効性について検証した。

**キーワード** 【美術教育 ICT 遠隔合同授業 マンガ指導案】

本報告書に掲載されている商品またはサービスなどの名称は、各社の商標または登録商標です。

<各社の商標又は登録商標>

Zoom及びZoomロゴは、Zoom Video Communications, Inc. の商標又は登録商標です。

Google Meet は Google LLC の商標又は登録商標です。

なお、本文中にはTMマーク、®マークは明記していません。

## I 主題設定の理由

昨今、将来の予想が困難な時代であり変化が著しく、不確実で、複雑で、曖昧な要素が絡み合う「VUCAの時代」と言われている。少子化・人口減少や高齢化、グローバル化の進展と国際的な地位の低下、地球規模の課題といった、多くの課題を抱えている。生成AIやロボットの飛躍的な進化も見られ、特定の職種では雇用が減少し労働市場の在り方も多く変わってくるが見通されている。第4期教育振興基本計画<sup>1)</sup>では、今後の社会の持続可能な発展のために、「一人一人が自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、『持続可能な社会の創り手』になることを目指すという考え方が重要である」と述べられている。学校教育においても、子供たちが他者と積極的に向き合い、他者と協働して考えを深めたり、課題を解決したりすること、新たな価値を見いだしていくことなどが求められている。第4期群馬県教育振興基本計画<sup>2)</sup>においても、生徒が様々なコンピテンシーを身に付けるにあたり、一人でその全てを完全に身に付けることを意味しているのではなく、「それぞれが互いに強みを発揮し合い、補い合い、協働してより良い社会に向けて行動を起こしていけるようにしていくことが大切です」と述べている。

美術科においては、中学校学習指導要領解説美術編（平成29年7月）<sup>3)</sup>において「対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。」と書かれており、自分の考えたことを基にして技能を応用したり、自分なりの表現方法を工夫したりする力を伸ばすことが求められている。これらのことから、美術科の授業においても生徒が他者との協働を通して、共に課題を解決したり、想像力を発揮して自分なりの表現方法を見いだしたり、広げていったりできるようにすることが重要であると考えられる。

私の勤務する沼田市では、市内9つの中学校のうちおよそ半数の学校が、全ての学年において1学級ずつしかない単学級である。また、1学級における生徒数も減少傾向にあり、1クラスの生徒数が20名以下という学校も複数ある。このような少人数の学級のメリットとして、教師がきめ細かい指導ができる、生徒が安心を感じられるという点が挙げられる。しかし生徒数が少ないことにはデメリットもある。その1つめは、授業において多様な意見が出にくいという点である。自分とは違う他の生徒の意見に触れることで気付くことはたくさんある。生徒数が少なければそのような機会は必然的に少なくなってしまう。2つめは、考えを深めるために協働的な学びの場を設定しても、生徒同士のやり取りなどの相互作用による考えの深まりに不足が生じる可能性があるという点である。多様な意見や考えに触れることができないために、意見の深まりをねらって協働の場を設定しても、多様な意見に触れられなければ、同調で終わってしまうケースも少なくはないだろう。また班ごとに深めた意見をクラス全体で比較する際にも、多くの意見を比較できないために、個人の場合と同様のことが起こる可能性がある。私も表現の題材において、豊かに発想し、創造的な表現の構想を練る場面や、鑑賞において造形的なよさや美しさを感じたり、表現の意図や工夫について考えたりする場面で、生徒の思考を深めるために、協働的な学びの場を意図的に設定することが多い。思考の深まりが豊かな発想や構想を練ったりするのにつながっていくと考えるからである。

令和元年度にスタートしたGIGAスクール構想によって、1人1台端末が一斉に整備されて生徒たちの学びも大きく変わった。その中の1つがオンラインによるリモート授業である。コロナ禍において、一斉休校時に教室と家庭をつなぐツールとして一般的になった。また、これによって教室同士をつないだ遠隔合同授業もこれまでよりも手軽に行えるようになった。本研究では、少人数の学級同士をつないで遠隔合同授業を行うことで、少人数の学級のデメリットを解消できるのではないかと考えた。

また、遠隔合同授業を少しでも取り組みやすいものにして、手軽にできるようにしていくことが、この取組をより効果的なものにするために必要であると考えた。本校の職員に遠隔合同授業を実施することへの不安要素は何かというアンケートを行ったところ、「ICT環境の整備や機器の操作」と回答した教師が87.5%、「相手との打ち合わせや事前準備」と回答した教師が81.2%、「指導の複雑化」と回答した教師が75%であった。このことから、遠隔合同授業が少人数の学級において思考を深めるために有効な手立てだと感じていても、教師が負担感を感じてしまえば実施する回数は減ってしまい、日々の授業に取り入れにくくなってしまおうと考える。そこで、離れた地域の教師同士が、少ない打合せの時間で授業イメージや目指す生徒像を的確に共有して授業準備ができるよう、本研究ではマンガ指導案を提案する。これによって遠隔合同

授業を行う教師同士が、簡単に授業イメージを共有できるようになり、遠隔合同授業を日々の学習に取り入れやすくなるだろうと考えた。

これらのことから、本研究では、主題を「少人数の学級における、自らの思考の深まりを実感し、創造的な力を発揮できる生徒の育成」副主題を「遠隔合同授業の実施とマンガ指導案の導入を通して」とした。

## II 研究のねらい

美術の学習において、少人数の学級同士で遠隔合同授業を行ったことは、生徒が多様な意見に触れ、思考の深まりを実感し、創造的な力を発揮する上で有効であったか、また、マンガ指導案を取り入れて打ち合わせを行ったことは、教師同士が授業のイメージや目指す生徒像を簡単に共有し、遠隔合同授業を少ない負担感で手軽に実施できるようにする上で有効であったかを検証する。

## III 研究の仮説

少人数の学級同士で遠隔合同授業を行っていくことで、生徒が協働の場において多様な意見に触れ、思考の深まりを自覚し、創造的な力を発揮することにつながっていくであろう。また、遠隔合同授業を行うためにマンガ指導案を取り入れた方法で打合せを行ったことは、授業のイメージや目指す生徒の姿を分かりやすく伝え、遠隔合同授業をより手軽で行いやすいものにしていくであろう。

## IV 研究の内容

### 1 基本的な考え方

#### (1) 言葉の定義

##### ① 「少人数の学級」とは

中学校設置基準第4条では、一学級の生徒数を40名以下としているが、本研究では、山間部や過疎地域などにおいて、指導の際に生徒数の少なさから多様な意見が出にくかったり、考えの深まりに不足が生じたりするといった様々な課題が生じる恐れのある、30名に満たない人数で編成された学級をここでは少人数の学級と定義する。

##### ② 「思考の深まりを実感する」とは

本研究では、新たな知識や技能を身に付けるだけでなく、多様な意見に触れることで既存の知識を再構築したり、自分のこれまでの価値観と結び付けたりして、自分がどんなふうに変えたり、広げたのかを言葉にして認知できる状態を思考の深まりを実感した状態と定義する。

##### ③ 「創造的な力を発揮できる生徒」とは

自らの表現の意図に応じて、材料や用具などの生かし方を工夫したり、多様な技能を応用したりして、自分なりの表現方法を見つけ出したりしてよりよい作品を目指して表現活動に取り組んでいる姿と定義する。

##### ④ 「マンガ指導案」とは

群馬県教育委員会の作成している「はばたく群馬の指導プランⅡ」の題材の作り方において、基本的な学習活動の場面を「出会う」「試す・広げる」「表す」「振り返る」の4つに分けて示してある。マンガ指導案とはその4つの場面をイラストや生徒の言葉で表したものであり、群馬県教育委員会のARTS going with Digital Conceptにおける群馬県「ARTS」美術教材の共有サイトの中で用いられている。

#### (2) ICTの活用の効果について

合同授業や授業を行うための打合せをより手軽に、簡単に行うためにICTを活用する。これによって、遠隔地をつなぎ同時双方向のやりとりが可能になる。これによって互いの場所を選ぶことなく、顔を見ながら授業のイメージを共有することができる。

#### (3) 手立ての説明

##### ① 遠隔合同授業の考え方

本研究では、少人数の学級における協働的な学びをより深めるための手立てとして、遠隔合同授業を

実施していく。遠隔合同授業とは、ZoomやGoogle Meetのようなオンラインでの遠隔会議システムを利用して、離れた学校の学級同士をつないで行う授業のことを指す。これによって、学級の生徒数の少なさを補い、少人数で授業を行っている場合と比較しても、多様な意見が出やすくなることが期待される。また、協働の場を設定することで、新たな価値観を獲得したり、次の問いを生み出すきっかけになったりすることが考えられる。生活環境の異なる他校の生徒と一緒に授業を行うといった点から、美術の制作を行う授業においては、発想・構想や試しの活動の場面で、多くの考えやアイデアに触れて自分の制作と比較をすることで、思考が深まり、より創造的な力を発揮できることが期待される。鑑賞の授業においても、多様な意見に触れることで、自分の気付かなかった視点に気付くことができたり、意見のやり取りを通して新たな見方を生み出したりすることが期待される。また、他地域との生徒との交流を通してコミュニケーション力や社会性の育成にもつながっていくのではないかと考えられる。

## ② 遠隔合同授業の進め方

どちらか一方の教師がT1として授業を進めていく。導入はT1が説明を行っている様子をメインの端末で相手の学校に映す。このとき、T1を映す端末の他に、教室全体を映す端末が1台あると全体の雰囲気が分かってよいと考える。展開の部分では、全体を映したり、生徒の活動の様子を映したりする。また、必要に応じてブレイクアウトルームを活用してグループ同士のやり取りを設定する。授業のまとめでは、生徒同士で相互鑑賞を行ったり、振り返りを発表させたり、教師によるまとめを行ったりする。

## ③ マンガ指導案について

授業の様子や目指す生徒像を分かりやすく相手に伝えるために、これまでの指導案の代わりに「出会う」「試す・広げる」「表す」「振り返る」の4つの場面を、イラストや教師の発問、生徒の発言、気付きなどで端的にまとめたものを「マンガ指導案」とする(図1)。マンガ指導案を作成するに当たって、目標、学習活動の内容、目指す生徒の姿、生徒の意識、教師の支援などをより具体的にイメージし、それらを絵や端的に吹き出しの言葉で書くことによって、視覚的に授業の様子を共有することができる。

図2ではピクトグラムを制作する題材の4コマ漫画を示している。「出会う」は鑑賞を行っている場面である。教師はベビールームのピクトグラムを見せて、どんな意味のピクトグラムなのか、どこにありそうかと生徒に質問している。生徒はベビールームを想起しているだけでなく、「見ただけで意味がわかるな」とピクトグラムの本質的な部分について考えたり、「図書館で静かにしてくださいという意味のピクトグラムがあるといいな」と生活の中における美術の働きについて考えをめぐらせたりしており、このような生徒の姿が見られる導入を目指したいという授業者の意図を表している。

2コマ目は「試す・広げる」の場面を示している。1コマ目の「図書館で静かにしてください」というメッセージをどんなピクトグラムにしたら伝わるのかを考えている場面である。図書室という情報や、静かに過ごしてほしいというメッセージはどんなデザインにすれば伝わるのかを考えている。口元に指を近づけるジェスチャーや読書している様子を単純化したデザインを用いたらどうかと発想をふくらませている。表現したい主題を的確に表現していくために、どう表現したら伝わるのかをしっかりと考えさせ

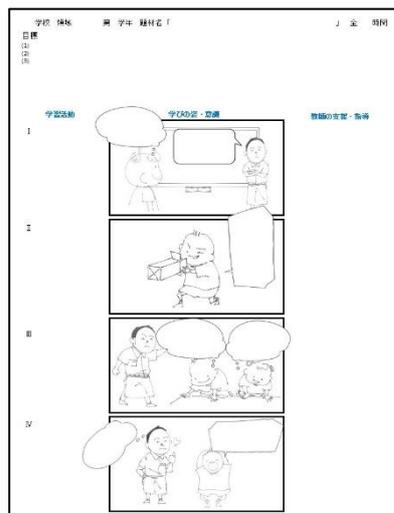


図1 マンガ指導案



図2 マンガ指導案例(ピクトグラム)

たいという授業者の意図を表している。

3コマ目は「表す」の場面について示している。1人1台端末を使ってデザインの構成や配色計画を試行錯誤したり、アクリル絵の具を使って制作を行ったりしている場面である。試行錯誤を通して、作品をよりよいものにしようとする生徒の姿を目指したいということを伝えている。

4コマ目は「振り返る」の場面である。完成させた作品について一人ずつ制作の意図や工夫したところについて説明している。発表を聞いている生徒は、自分の作品との違いやよいところ、メッセージがちゃんと伝わる理由はどうしてなのか、生活の中におけるピクトグラムについて興味をもって考えている。このような振り返りの姿がまとめの授業の中で現れるように指導していきたいということを伝えている。

#### ④ マンガ指導案を使った授業の打合せについて

遠隔合同授業をより手軽で行いやすいものにするための手立てとして、マンガ指導案を使った打合せを行っていく。遠隔会議システムを用いて、マンガ指導案を共有して打合せを行っていく。打合せで用いるマンガ指導案には、中央に4コマ漫画を記載し、2校間での遠隔合同授業をスムーズに行うために、左側に授業を行う際のタイムスケジュールを、右側にはICTの設定や操作について記載した。打合せでは、この資料を共有して打合せをすることで授業や目指す生徒像、ICT機器の準備についてのイメージを簡単に共有することができ、相手との打ち合わせや事前準備を手軽なものにしていけるのではないかと考えた。

## V 研究の計画と方法

### 1 実践の概要

#### 授業実践 I

対 象	研究協力校 沼田市立白沢中学校 1 学年 (17名) 北塩原村立裏磐梯中学校 1 学年 (8名)
実 践 日	令和 6 年12月19日 2 時間
題 材 名	A 表現「スクープ! こんなところに小人が!」
題材の目標	場所の特徴を生かして、小人を見つけたときの驚きが伝わるようなスクープ写真を、交流しながら撮影することができる。

#### 授業実践 II

対 象	研究協力校 沼田市立白沢中学校 1 学年 (17名) 豊頃町立豊頃中学校 1 学年 (17名)
実 践 日	令和 7 年2月6日 1 時間
題 材 名	B 鑑賞「屏風の裏からのぞいてみると」
題材の目標	班で協力して、動きや構図、撮影方法を工夫して、風神雷神図屏風を裏側から見た写真を撮影することができる。

### 2 検証計画

検証の観点	検証の方法
少人数の学級同士で遠隔合同授業を行ったことは、生徒の人数の少なさを補い、協働の場において生徒が多様な意見に触れ、思考の深まりを自覚する上で有効であったか。	○生徒の観察 ○生徒へのアンケート ○振り返りシートの記述
遠隔合同授業を行うために、マンガ指導案を取り入れた方法で打合せを行ったことは、遠隔合同授業をより手軽なものにしていく上で有効であったか。	○生徒へのインタビュー ○教師の観察 ○教師へのインタビュー

## VI 研究の結果と考察

### 1 実践 1 (北塩原村立裏磐梯中学校との実践)

#### (1) 遠隔合同授業の打合せ

本実践は令和6年度に群馬県教育委員会で行ったARTS going with Digital Conceptの中の一環として福島県の北塩原村立裏磐梯中学校との遠隔合同授業を行った。私の勤務する白沢中学校も裏磐梯中学校も山間部にある小規模校である。白沢中学校の1学年は17名、裏磐梯中学校の1学年は8名で共に少人数の学級である。裏磐梯中学校の担当の教師とは事前に電話で打ち合わせの日時を決めておき、当日は遠隔合同会議システムを使って打ち合わせを行った(図3)。裏磐梯中学校は、普段、隣接する裏磐梯小学校の教頭先生が美術の授業を担当しているとのことであったが、裏磐梯中学校の教頭先生も急遽打ち合わせに参加してくれた。また、手立てにもあるように、打ち合わせではマンガ指導案にタイムスケジュールやICTの操作方法等について記載した資料を使用した(図4)。ここでは、A表現の「スクープ!こんなところに小人が!」という2時間の題材を行った。紙に描いて作成した小人を、見つけたときの驚きが伝わるように周囲の物や背景、構図を工夫してスクープ写真を撮るという題材である。私がT1として導入で説明を行う。その後学校ごとに撮影を行い、途中で相互鑑賞を行うために、ブレイクアウトルームでグループ交流を行う。そして自分の作品の改善点を見出して、改めて撮影を行い、最後にグループと全体で鑑賞会を行うという流れである。



図3 打ち合わせの様子(ビクトグラム)



図4 打ち合わせ資料(スクープ!こんなところに小人が)

最初に授業の流れを簡単に説明し、その後細かい時間の設定、ICTの設置、班分けの方法なども打ち合わせた。授業の打ち合わせ時間はおよそ30分であった。美術の免許をもたない教師も打ち合わせに参加をしていたが、打ち合わせ後には授業の流れや授業の中における生徒の姿がとても分かりやすかったと感想を聞くことができた。

## (2) 授業当日の様子

### ① 授業前

最初は、1人1台端末の動作チェック、ブレイクアウトルームの作成などのための時間を確保した。その後ブレイクアウトルームで班ごとに自己紹介や、自分たちの学校のことについて互いに紹介し合う活動を10分程度行った(図5)。今回は白沢中学校3~4名に対して2~3名の裏磐梯中学校の生徒を加えてブレイクアウトルームをつくった。生徒お互いに初めての遠隔合同授業であったため、少し緊張している様子であった。



図5 自己紹介の様子

### ② 授業(導入)

導入は私がT1として行った。初めに、教師の制作したスクープ写真を生徒に示した(図6)。本時のねらい「場所の特徴を生かして、小人を見つけたときの驚きが伝わるようなスクープ写真を、交流しながら撮影しよう!」を生徒に伝え、制作をスタートさせた。



図6 参考作例(スクープ!こんなところに小人が)

### ③ 授業(展開1)

最初に小人づくりを行った。それぞれの学校で3cm×5cmの画用紙を用意してスクープの中で見つける小人を作成した(図7)。その後、スクープ写真を各々の学校で撮影をした。生徒たちは教室を離れ、どこでどんな風に撮影したら、小人を見つけたときの驚きが表現できるのかを自分たちで考えながら、およそ15



図7 授業の様子①

分間撮影を行った（図8）。

#### ④ 授業（展開2）

撮影終了後、生徒たちはブレイクアウトルームで自分たちの作品を互いに見せ合い、それぞれの工夫した点について紹介し合った（図9）。自己紹介を冒頭で行っていたため、活発に自分の作品を紹介したり、お互いの作品に質問したりする姿が見られた。自分のクラスの友達以外の作品を画面越しに見て、生徒たちはお互いに賞賛したり、自分たちのクラスの中では見られない工夫に触れて、驚いたりしている様子であった。互いの作品や作品の意図を発表した後に各校から2名ずつ指名をして、全体で発表してもらった。「手前に大きなものを配置して、奥に小人を小さく入れて遠近感を意識した」という構図の工夫や、「掃除の時間に掃除ロッカーを開けようとしたら中に偶然見つけたことが分かるように、ロッカーのドアの隙間から写真を撮った」「授業中に筆箱を開けたら、小人がいて驚いた瞬間と分かるように、筆箱を少し開けて撮影した」という偶然発見したときの状況や作品の主題が伝わるような構図やアングルの工夫について聞くことができた（図10）。

その後、中間交流を踏まえて再度、撮影を10分間行った。中間交流で出た、構図の工夫や主題との関わりを意識して撮影を行うように伝えた。

#### ⑤ 授業（まとめ）

まとめの場面でも、中間交流の時と同じように5分程度、ブレイクアウトルームでお互いの作品を相互鑑賞した後に全体で鑑賞を行い、その後振り返りを行った。振り返りは、各学校で用意した用紙に記入をしたり、一人1台端末に入力をしたりした。その後、各校2～3名ずつ作品と、振り返りを全体で共有した。振り返りでは、「みんなのいろいろな工夫や発想に触れられて、自分の作品を修正することができた」「他の学校の人の意見を聞いて、偶然小人を見つけたときの驚きを表現するためのアングルを工夫することができた」という振り返りを聞くことができた。

### (3) 考察

打ち合わせの場面では、スムーズに授業のイメージや目指す生徒の姿、当日の教師の動きや生徒への声掛け等について伝えることができた。打ち合わせに参加した教師からも、授業の流れや目指す生徒の姿がイラストや生徒の言葉で示されていてイメージしやすかったと聞くことができたことから、マンガ指導案がこの打ち合わせでは有効であったと考えられる。また、マンガ指導案の両側に、時間の詳細やICTの具体的使用方法について打ち合わせを行ったことで、「当日の教師のICT機器の操作について具体的なイメージを共有することができた。」という意見も聞くことができた。

授業においては、同じ学校の生徒同士では撮影をしながら、どのような写真を撮影しているのか、どうしてそう撮影したのかなど、自然発生的に交流や相互鑑賞が起きていた。しかし画面越しに他の学校の、生徒の作品を鑑賞したり、やり取りを通して制作の意図や工夫に触れたりすることができ、賞賛や質問をしたり、驚いている生徒の姿を見て、生徒たちに新たな気づきがあったことが推察される。また、最初の撮影の場面で構図や主題の工夫に



図8 授業の様子②



図9 授業の様子③

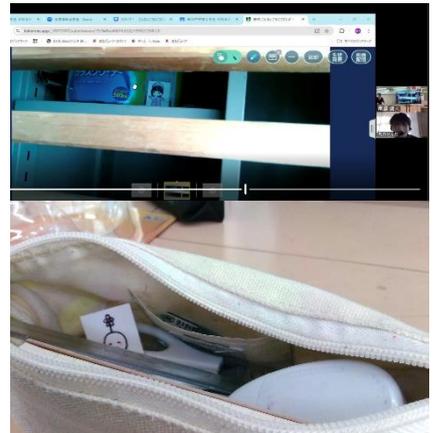


図10 生徒の作品①

図10 生徒の作品①



図11 生徒Aの作品（交流前）



図12 生徒Aの作品（交流後）

あまり迫れなかった生徒たちが、中間交流を通して多くの作品に触れ、小人やもの、背景などの配置、アングル、構図などの造形的な視点に気付き、撮影し直すことができていたことから、遠隔合同授業によって深まりが見られ、創造的な力を発揮していたことが分かる。生徒Aは最初の中間交流の前の撮影で前ページ図11の作品を撮影したが、交流後には前ページ図12の作品を撮影した。交流を通して「自分を撮影していたら、たまたまサンタの格好をした小人が石鹸の所に写り込んでいた。小人はプレゼントを届けにきた。」と写真の撮り方や構図の意図、主題を明確にすることができた。

## 2 実践2（豊頃町立豊頃中学校との実践）

### (1) 遠隔合同授業の打合せ

実践2として、北海道の豊頃町立豊頃中学校と遠隔合同授業を行った。白沢中学校の1学年が当時17名に対して豊頃中学校の生徒も同じ17名であった。豊頃中学校とも、裏磐梯中学校と同様に遠隔合同会議システムで打ち合わせを行った。ここでも、打ち合わせをスムーズに行う手立てとしてマンガ指導案を用いた（図13）。前回と同様にマンガ指導案の左側にタイムスケジュールを、右側にICTの使用方法について記載した。豊頃中学校とは「屏風の裏からのぞいてみると」というB鑑賞の1時間での題材を行った。扱う作品は俵屋宗達の「風神雷神図屏風」である。この作品の中に入り込み、裏から見たところを生徒自身で再現して写真を撮る活動を通して、風神雷神の動きや、構図などから作者の意図に迫っていくという題材である。実践1と同様に、私がT1として授業を進め、1度撮影を行い、途中で相互鑑賞と交流を行い造形的な視点等に迫り、後半でもう1度撮影を行い、最後に相互鑑賞とまとめをするという流れである。ここでも、打ち合わせ自体は30分程度で行うことができた。豊頃中学校で授業を行ってもらった先生からは「今回のような鑑賞の授業はあまり行ったことがないが、授業の具体的なイメージをもつことができた」と話してもらえた。

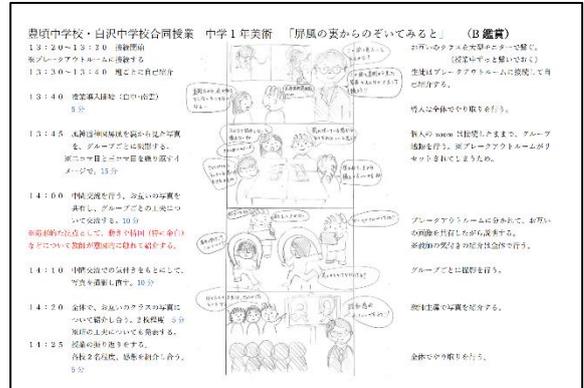


図13 打ち合わせ資料（屏風の裏からのぞいてみると）

扱う作品は俵屋宗達の「風神雷神図屏風」である。この作品の中に入り込み、裏から見たところを生徒自身で再現して写真を撮る活動を通して、風神雷神の動きや、構図などから作者の意図に迫っていくという題材である。実践1と同様に、私がT1として授業を進め、1度撮影を行い、途中で相互鑑賞と交流を行い造形的な視点等に迫り、後半でもう1度撮影を行い、最後に相互鑑賞とまとめをするという流れである。ここでも、打ち合わせ自体は30分程度で行うことができた。豊頃中学校で授業を行ってもらった先生からは「今回のような鑑賞の授業はあまり行ったことがないが、授業の具体的なイメージをもつことができた」と話してもらえた。

### (2) 遠隔合同授業の打合せ

#### ① 授業前

この実践においても、授業の前に1人1台端末の接続確認、ブレイクアウトルームの設定等を行い、その後グループごとに生徒同士の自己紹介や学校の紹介等を行った。本校の生徒は2回目ということもあり、白沢中学校の生徒は進んで豊頃中学校の生徒と話すことができていた。

#### ② 授業（導入）

最初に俵屋宗達の風神雷神図屏風の画像を見せた。多くの生徒がこの作品を見たことがあり知っていると答えた。図14の参考作例を示し、本時のねらいである「班で協力して、動きや構図、撮影方法を工夫して、風神雷神図屏風を裏側から見た写真を撮影しよう」を伝えた。

#### ③ 授業（展開1）

今回の題材は4人グループで協力して、屏風を裏から見た写真を撮影することとした。ここでの撮影時間は15分間で行った。4人グループの中で、風神と雷神役、撮影役、もとの作品を見て指示を出す役と分かれて取り組んでいた。また、どこでどうやって撮影をするのか熱心に考えている様子であった（図15）。生徒たちは、風神と雷神がどんな動きをしているのか、どんなふうに屏風に描かれているのか、もとの作品を何度も見て確認しながら撮



図14 参考作例（屏風の裏からのぞいてみると）



図15 授業の様子④

影を行っていた。また、風神と雷神が空中に浮いている様子を表現するために、高い所や椅子に乗ったり、ジャンプした瞬間を撮影したりして、班ごとにアイデアを出し合い、試行錯誤しながら撮影に臨んでいた。白沢中学校の生徒は、窓のカーテンを背景に撮影を行い、シルエットで表現しようとする班もあり、班ごとの工夫やこだわりが見られた（図16）。

#### ④ 授業（展開2）

撮影後、中間交流を行った。班ごとにブレイクアウトルームに分かれて、豊頃中学校の生徒と互いの作品を共有し、撮影の際に意識した造形的な視点や、撮影の工夫などについて意見交流を行った。交流の中では、お互いの撮影方法に対して質問をする班も見られて、自分たちにはない造形的な視点に気付いた様子であった（図17）。

その後、班の意見をクラス全体で共有した。各班の発表から、白沢中学校の生徒は、風神と雷神の動きや浮いている表現にこだわって撮影を行った班が多かったのに対して、豊頃中学校の生徒は、撮影した画像をトリミングして大きさを変えるなど、画像編集をしてもとの作品の構図に近づけようとしているグループが多かった。

中間交流を受けて再度撮影を行った。本校の生徒は前半の撮影の際にはあまり意識していなかった、構図や屏風への収まり方を造形的な視点として撮影を行っている班が多く見られた。

#### ⑤ 授業（まとめ）

撮影終了後には、それぞれの班の作品を全体で共有をして中間交流の前と後で変わったところや意識したところについて発表をしてもらった。窓の前で撮影を行っていた班は、窓の枠を屏風に見立てて右隻と左隻に分けて撮影をし直したと自分たちの制作を振り返った。また、豊頃中学校の生徒が、タオルなどの小道具を持って撮影していたことから、風神と雷神の持ち物にも着目して撮影を行ったと話してくれた（図18）。教室で撮影していた班も同様に、右隻と左隻を意識して撮影場所を黒板の前に変更して撮影をやり直していた（図19）。

豊頃中学校の生徒は、白沢中学校の生徒の動きに着目したという意見から、風神と雷神のポーズをもう一度見直し、風神と雷神を見ている視点が違うという点に気付いたという。そして風神と雷神それぞれの違うアングルから撮影を行って、画像を編集して作品を作成したという（図20）。

生徒たちの作品をもとに、教師から風神と雷神のポーズや視点から受ける作品における動きの印象や、構図を視点にした余白が作り出す画面の広がりなどについてまとめの話をして、最後に振り返りを個人で行った。「場や動きの効果から作者が何をどのように表したかったのか考えることができた」「遠隔合同授業を行って、白沢中にはない豊頃中の人たちの工夫が知れてよかった」「お互いの学校の作品を見て、動きだけでなく、アングルや構図、小道具などたくさんの視点を知ることができた」という振り返りを聞くことができた。

### (3) 考察

打ち合わせの際の豊頃中学校の先生の「今回のような鑑賞の授業はあまり行ったことがないが、授業



図16 授業の様子⑤



図17 授業の様子⑥



図18 生徒の作品②



図19 生徒の作品③



図20 生徒の作品④

の具体的なイメージをもつことができた」という発言から、打ち合わせにおいてマンガ指導案で授業のイメージを的確に伝えられたと考えられる。また、1人1台端末の接続等の大きなトラブルもなく、滞りなく実践を行うことができたので、授業前の打ち合わせとしては十分であったと考えられる。

授業では、最初の撮影の際に生徒たちは、もとの作品と撮影した画像を何度も見比べながら撮影を行っていた。この題材でも同じ学校の班同士は、お互いの班が何をしているのかを見ながら自分たちの撮影を行っていたために、同じような造形的な視点に寄っていったと考えられる。白沢中学校では風神と雷神のポーズやアングルに、豊頃中学校では構図や風神雷神の持っているものを視点に撮影を行っていた。中間交流でお互いの視点を共有することによって、それまでなかった視点にお互いの学校の生徒が気づき、撮影をし直すことができたことから、遠隔合同授業によって生徒が思考を深め、創造的な力を発揮したと言える。

### 3 振り返り

#### (1) 生徒へのアンケート

遠隔合同授業を行う前と後に、美術の授業において思考の深まりに関して実践校の生徒にアンケートを行った。記述は、2月のものである。(○成果 ●課題)

質 問 項 目	評 価	
	R6. 9月	R7. 2月
美術の協働の場において、考えが深まったことを実感しながら、制作に取り組んでいますか。 とてもできている：4 少しできている：3 あまりできていない：2 全くできていない：1	2.8	3.4
○普段、一緒に勉強していない人たちの考えに触れて、自分にはない発想にたくさん触れることができて、自分の考えをよりよいものにすることができた。 ○クラスの友達と話したり、オンラインで違う学校の人と話したりする中で新しいアイデアが生まれて、作品に取り入れることができた。 ○他の学校の人に、自分たちの作品を褒めてもらえて嬉しかった。 ●話すのが苦手で、どう話していいかわからなかった場面があった。 ●作業している時の相手の学校の様子も見られるとよかった。		

#### (2) 教師へのインタビュー

実践後に、授業を一緒に行った教師にインタビューを行った。(○成果 ●課題)

○マンガ指導案が分かりやすく、授業前の打ち合わせではイメージを共有しやすかった。 ○比較的簡単に、遠隔合同授業ができることが分かった。 ○オンラインでの交流の場面では、多様な考えに触れることで、作品をよりよいものにしようとする生徒の姿を見ることができた。 ●自分の制作に対して、言語化をしてうまく説明することができずに対話が滞っている班が見られた。 ●生徒がICTの操作に手間取ってしまう時間があった。
---

### 4 考察

生徒への「美術の協働の場において、考えが深まったことを実感しながら、制作に取り組んでいますか。」という質問において、実践前と後では0.6ポイントの増加が見られたことから、遠隔合同授業を通して生徒が思考の深まりをより自覚し、創造的な力を発揮できたと考えられる。また、「クラスの友達と話したり、オンラインで違う学校の人と話したりする中で考えが深まった。」という意見から、同じクラスの生徒との協働での深まりと、他の学校の生徒との協働の場面での深まりと二段階の思考の深まりがあったと考えられる。

教師へのインタビューでは、マンガ指導案を用いたことで授業のイメージの共有がスムーズであった

ことが分かる。また、「多様な考えに触れることで、作品をよりよいものにしようとする姿を見ることができた。」という発言からも生徒が創造的な力を発揮して、表現活動に取り組んでいたことが分かる。

## Ⅶ 研究のまとめ

### 1 成果

- 少人数の学級で遠隔合同授業を行ったことで、協働の場面において、1つの学級では得られないような多様な意見や考えに触れた上で、作品をよりよいものにしようとする姿を見ることができ、生徒自らの思考の深まりの自覚と、創造的な力の発揮につながった。
- マンガ指導案を用いたことで、相手の教師に授業のイメージや目指す生徒像を的確に伝え、遠隔合同授業の打ち合わせをスムーズに行うことができ、遠隔合同授業を行う上での意識的なハードルを下げることができた。

### 2 課題

- 自らの制作について言語化して上手く相手に伝えられない生徒や、ICT操作の手間取る生徒もいたことから、実践を重ねる中で慣れていくことが必要である。

## Ⅷ 提言

- ・少人数学級において、遠隔合同授業を行うことは、生徒が協働の場において多様な意見に触れ、思考の深まりを自覚し、創造的な力を発揮する上で有効である。
- ・遠隔合同授業を行う上で、マンガ指導案を用いて打ち合わせを行ったことは、授業のイメージや目指す生徒の姿を分かりやすく伝え、遠隔合同授業をより手軽なものにしていく上で有効である。

### <引用文献>

- 1) 教育振興基本計画2023 文部科学省  
[https://www.mext.go.jp/content/20230615-mxt\\_oseisk02-100000597\\_01.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20230615-mxt_oseisk02-100000597_01.pdf) (2025-7-10)
- 2) 群馬県教育ビジョン(第4期教育振興基本計画)2024 群馬県教育委員会  
<https://www.pref.gunma.jp/uploaded/attachment/623919.pdf> (2025-7-10)
- 3) 文部科学省 『中学校学習指導要領解説美術編(平成29年告示)』日本文教出版株式会社

### <参考文献>

- 1) はばたく群馬の指導プランⅡ(令和元年8月) 群馬県教育委員会
- 2) ARTS going with Digital Concept 群馬県「ARTS」美術教材の共有サイト 群馬県教育委員会  
<https://sites.google.com/view/adc-gunma/home> (2025-8-8)